

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 28日
- 事業名 : 病気や障がいがあってもいのち輝く社会へ～福岡におけるこどもホスピス&ハウスの創造とケア共同社会の醸成～
- 資金分配団体 : 公益財団法人原田積善会
- 実行団体 : 福岡子どもホスピス&ファミリーハウス コンソーシアム

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
重い病気の子どもと家族からの相談	相談件数	10件/月	2024年 3月	2022年4月以降、31件の相談支援を実施した。 また、9月19日にグリーフの会を開催した。	2
相談実施要領	共有された相談実施手順	相談受付から相談記録に至る手順が整理され、継続的に相談事業の運営が改善されている	2024年 3月	グリーフの会実施要領、および相談事業実施要領に基づき活動中。相談対応の状況を独自システムに蓄積中。	2
子どもホスピス&ハウス・小児緩和ケアの講演会・チャリティイベント	講演会・チャリティイベントの開催回数	講演会・チャリティイベントを年2回開催。	2024年 3月	レモネードスタンドによる啓発活動を9回、および、よかよか子どもフェスティバル開催。	2
ボランティア・プロボノによる活動	ボランティア・プロボノを対象とした企画の回数	講演会・チャリティイベント前にボランティア・プロボノ向け研修を開催。 講演会・チャリティイベント時にボランティア・プロボノによる活動。	2024年 3月	ホームページを通してボランティアの申し入れがある。 その際、ボランティアの前に当コンソーシアムの活動内容を個別に説明している。	2

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
ボランティア、プロボノ (医療に限らず) 登録者	ボランティア登録者数 プロボノ登録者数	登録ボランティア 100 名以上 登録プロボノ 20 名以上	2024 年 3 月	コロナ禍につき積極的ボランティア募集は実施していないが、2022 年 4 月以降に 13 名のボランティアを登録。 新規のプロボノは 2 名。	2
パーソナルケアの実施	ニーズに応じた支援体制	ニーズに応じたパーソナルケアが実施されている。	2024 年 3 月	夢を叶える活動を 2 件実施した。	2
地域社会の参加	写真展の来場者と、子どもホスピス & ハウスの理解度	写真展来場者数 100 名以上 地域住民の理解度 (5 段階評価 4 以上)	2024 年 3 月	福岡天神屋台組合との連携により、福岡天神地区の 4 3 の屋台に募金箱を設置。 屋台のお客さんに対して屋台店主から啓発していただいているなど、活動が広がっている。	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A: 変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
今年度の教育啓発としてのイベントである「レモネードスタンド」は、継続して市販のレモネードペットボトルを活用。 これまで対面で開催していた「グリーフの会」をオンライン開催で対応。 その結果、宮城、千葉、大分など、県外からの参加者があり、「グリーフの会」の必要性を再認識している。 5/3の「よかよか子どもフェスティバル」はホールを借りての開催であったが、ホール規定のコロナウィルス拡大防止対策を講じるとともに、当法人の看護チームにより徹底した感染拡大防止対策を実施して開催した。 プロジェクト内の会議等はオンライン会議を活用している。

③ 広報 (※任意)

1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

2022年6月27日 西日本新聞 「子どもホスピス」を福岡に 募金に天神の43屋台協力

2.広報制作物等

イベント告知チラシ

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	実施状況の適切性	職員 1 名	NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト・理事
内部	実施状況の適切性	職員 1 名	NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト・理事
内部	知見の共有・活動の改善	職員 1 名	NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト・理事
内部	組織基盤の強化	職員 1 名	NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト・理事

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
相談対象者	相談後の改善度	80%が好評価	2024.3	相談してよかったという感想（言葉）を聞いて(記録して)おり、概ね順調に進捗中。
ボランティア	活動の理解度 次回参加意思	活動の理解度が5段階評価の4以上 80%が次回も参加	2024.3	ホームページやSNSを通してボランティアのお申し入れが増えている。ボランティアの意識は高く、自分事として活動している様子がうかがえる。指標に対する現在の数値は、ボランティア活動の理解度は、5段階評価の「5：66.7%」「4：29.6%」「3：3.7%」 次回ボランティアの参加意思は「ぜひ参加したい」「参加したい」で100% ※詳細は別紙「ボランティアに関するアンケート」を参照。

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
賛助会員数	個人の賛助会員数 企業の賛助会員数	個人の賛助会員数は100以上 企業の賛助会員数は50以上	2024.3	個人賛助会員数は128名で目標達成。 企業賛助会員数は5団体。 「知っていただく→共感をよぶ→賛助会員になる」の流れが実感できており、啓発活動にて個人賛助会員数は着実に増加している。 令和5年度に認定NPOの条件をクリアできる見込みのため、企業賛助会員は令和5年度の活動で推進する。
社会貢献活動/プロボノを検討する企業の数	社会貢献活動/プロボノによる活動を紹介した企業のうち具体的な検討に入る割合	社会貢献活動/プロボノによる活動を紹介した企業のうち80%が具体的な検討に入る	2024.3	福岡天神屋台組合、某博多ラーメンチェーン店、薬局チェーン店など、社会貢献活動として実際に行動(募金箱の展開と啓発活動)に移してくださる事例も増えてきた。 令和5年度に認定NPOの条件をクリアできる見込みのため、企業へのアプローチは令和5年度に推進する。
パーソナルケア対象者	小児がん拠点病院等の医師からの依頼、または家族からの依頼に基づいて活動し、対象者のニーズが叶えられた状態	肯定的な意見	2024.3	パーソナルケア実施率100% パーソナルケアは、現時点のニーズを叶えるのことはもちろん、活動を実施したことでお子さんを見送られたあとのご家族の想いにも寄り添うことができている。 (お子さんを見送られたあとに、当法人の正会員になっていただいたなど)



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>① 福岡において、相談支援事業を行うことによって、重い病気の子どもと家族が、生活上の不安や困難が軽減された状態に推移しているか。</p> <p>② 福岡において子どもホスピス＆ハウスの設立に向けた教育啓発活動を行うことにより、一般市民のボランティアが、子どもホスピス＆ハウスの必要性を理解して自分自身が自発的・主体的に課題を解決していこうという意識を持つ状態に推移しているか。</p> <p>③ 福岡においてLTCの子どもと家族の希望を叶える活動によって、子どもと家族の病院や在宅でのニーズや個別性に合わせたケアが実施できているか。</p> <p>④ プロジェクトの活動に関する課題が共有されており、改善サイクルが機能しているか。</p>	<p>① 対象者は相談後に「話せてよかった」という感想が一樣に聞くことができており、不安は軽減できている。順調に進捗中。</p> <p>② ボランティア活動の理解度、および自発的・自主的活動になっている順調に進捗中。</p> <p>③ パーソナルケア実施率100%順調に進捗中。</p> <p>④ 課題事項は共有しているが、改善サイクルはまだ機能していない。</p>	<p>① 相談希望のご家族は、九大病院小児医療センター親の会経由に加え、WebやSNS、口コミなどで活動を知ったご家族も増え、ルートが多様化している。</p> <p>② 「子どもホスピスのことを知ったからボランティアしたい」という申し入れが多く、ボランティア個々の子どもホスピスに関する理解度、ならびに自主性・主体性はとても高い。</p> <p>③ コロナ禍であるため日常生活におけるパーソナルケア（買い物に行きたいので子どもをみてほしい等）はないが、予後が悪いお子さんとご家族に対する「夢を叶える活動」支援は100%応えられている。</p> <p>④ 定期的にプロジェクト運営会議を開催しており課題事項は共有できているが、課題管理表の運用は定着していない。</p>

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
⑤ 事業担当者＋ボランティア＋プロボノ登録数が増えているか。	⑤ 事業担当者1名増加 ボランティア43名 プロボノ7名 指標は確実に増加しており、順調に進捗中。	⑤ 数回のボランティアを経て事業担当者になったメンバーもあり、ボランティアにとどまらずもっと貢献したいという想いの支援者が増えてきた。 当コンソーシアム内の「みんなで子どもホスピス＆ハウスを創ろう」という機運は確実に高まっている。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	前項評価結果の通り、設定した短期アウトカムの目標値については達成の見込みである。 短期アウトカムの実現が「子どもホスピス＆ハウス」の実現により近づくものと理解して活動している。 短期アウトカムの目標値は通過点であり、その先の最終目標を目指しているため、短期アウトカムの目標達成が見えてきても、活動を緩めることなく邁進していく。

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	<p>① 福岡において、相談支援事業を行うことによって、重い病気の子どもと家族が、生活上の不安や困難が軽減された状態に推移しているか。</p> <p>② 福岡において子どもホスピス＆ハウスの設立に向けた教育啓発活動を行うことにより、一般市民のボランティアが、子どもホスピス＆ハウスの必要性を理解して自分自身が自発的・主体的に課題を解決しているという意識を持つ状態に推移しているか。</p>	<p>① 対象者は相談後に「話せてよかった」という感想が一樣に聞くことができており、不安は軽減できている。</p> <p>② ボランティア活動の理解度、および自発的・自主的活動になっている順調に進捗中。</p>	<p>① 相談は1家族1回にとどまることなく、繋がりができたら継続的な相談相手となるため、当コンソーシアムで目指している「子どもホスピス＆ハウス」は大変有効であることを再認識した。相談を受けたご家族からは施設の早期実現を望む声も多いため、<u>継続的に状況をフォロー</u>することで相談対象ご家族が応援団となっていただくように誠意をもって対応する。</p> <p>② 「子どもホスピスのことを知ったからボランティアしたい」という申し入れが多く、ボランティア個々の子どもホスピスに関する理解度、ならびに自主性・主体性はとても高い。 「私に何ができるか分からないがボランティアしたい」というお申し出が多いため、<u>当コンソーシアムが目指す姿や活動内容を個人ごとに説明し、その中でできることを一緒に考え活躍していただくよう仕向けていく。</u></p>

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
	③ 福岡において LTC の子どもと家族の希望を叶える活動によって、子どもと家族の病院や在宅でのニーズや個別性に合わせたケアが実施できているか。	③ パーソナルケア実施率100% 順調に進捗中。	③ コロナ禍であるため日常生活におけるパーソナルケア（買い物に行きたいので子どもをみてほしい等）はないが、予後が悪いお子さんとご家族に対する「夢を叶える活動」支援は100%応えられている。 2022年度に開催した「よかよか子どもフェスティバル」に医療的ケア児の参加もあったが、看護職以外のスタッフはお子さんへの接し方がわからない様子であったため、今後、日常生活におけるパーソナルケアを円滑に遂行できるように、 <u>看護職以外のスタッフ、およびボランティアを対象とした「重い病気のお子さんとの接し方」などの基本的な研修を実施する。</u>
実施をととした活動の改善、知見の共有	プロジェクトの活動に関する課題が共有されており、改善サイクルが機能しているか。	課題事項は共有しているが、改善サイクルはまだ機能していない。	定期的にプロジェクト運営会議を開催しており課題事項は共有できているが、課題管理表の運用は定着していない。 無理に課題管理表を運用するのではなく、課題事項を共有することを主目的として、 <u>運営会議の資料を誰もが閲覧できるよう整理して共有する。</u>
組織基盤強化・環境整備	事業担当者＋ボランティア＋プロボノ登録数が増えているか。	事業担当者1名増加 ボランティア43名 プロボノ7名 指標は確実に増加しており、順調に進捗中。	数回のボランティアを経て事業担当者になったメンバーもおり、ボランティアにとどまらずもっと貢献したいという想いの支援者が増えてきた。ボランティア希望者はホームページを通してのお申し入れが多いが、どのチャネルから子どもホスピスのことを知っていただいたかは不明である。 今後は、 <u>子どもホスピスのことを知った手段、その手段ごとの属性（性別、年代等）などを収集し、さらに効果的なボランティア募集を行う。</u>

④ 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

各地で啓発活動を行っていることに加え、それを新聞やテレビなどのメディアが取り上げてくれていること、メディア報道をみた一般の方が自分のできることは何かを考え自発的に支援してくれていること、そしてその支援者が自発的に啓発活動を行ってくれていることなどから、「知ってもらう活動」が一般の方の心を動かしていることが状態の変化（良い状態への変化）に寄与していると考える。

⑤ 事前評価時には想定していなかった成果

支援者が自発的に啓発活動を実施していただいていることは大きな成果である。

具体的には、福岡天神屋台組合の全店舗が募金箱を設置し、役員が自ら啓発活動を実施していただいていること。

「支援しない理由がない！」と、屋台の大将が声をあげてくれたことによるもので、福岡の文化ともいえる屋台組合の強力な支援は、事前評価時には想定していなかった。

支援者が啓発して、それを知った支援者がさらに啓発するという良い連鎖が起きている。良い事例を多くの支援者で共有し、未来に対するワクワクが連鎖する組織へと進化させる。



⑥ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>「福岡に子どもホスピス&ハウスを絶対に創ってほしい」という声を頻繁に耳にするようになってきた。一般市民に対する理解は広がっていると感じる。休眠預金事業で設定した短期アウトカムを達成することに限れば円滑に行える計画は策定できているが、私たちは福岡に子どもホスピス&ハウスを設立することを目的としているため、活動のリソース（資金、人、時間）はまだ不足しているのが現状。</p>

⑦ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

ボランティア参加者の子どもホスピス&ハウスに対する意識は高まってきているため、事業担当者として活躍していただけるように、ボランティア向け教育研修プログラムの確立を図りたい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）